

第 15 回原子力委員会定例会議議事録（案）

- 1．日 時      2004 年 4 月 13 日（火）10：30～11：10
- 2．場 所      中央合同庁舎第 4 号館 7 階 共用 743 会議室
- 3．出席者      近藤委員長、齋藤委員長代理、木元委員、町委員、前田委員  
                 内閣府  
                 藤嶋参事官（原子力担当）、犬塚参事官補佐

4．議 題

- （1）平成 17 年度の原子力関係施策の重点化の方向性
- （2）市民参加懇談会コアメンバー会議の結果について
- （3）原子力委員会専門委員の解任について
- （4）その他

5．配布資料

- 資料 1      平成 17 年度の原子力関係施策の重点化の方向性（案）
- 資料 2      第 18 回市民参加懇談会コアメンバー会議の結果について  
                 （座長報告）
- 資料 3      原子力委員会専門委員の解任について（案）
- 資料 4      第 14 回原子力委員会定例会議議事録（案）
- 資料 5      原子力委員長計についてご意見を聴く会（第 11～14 回）  
                 の開催について

6．審議事項

- （1）平成 17 年度の原子力関係施策の重点化の方向性

標記の件について、犬塚参事官補佐より資料 1 に基づき説明があり、以下のとおり意見交換があった。

（木元委員）「1．現状認識」の 4 つ目の放射線利用に関する記述に、食品照

射による安全確保を追加してほしい。食品照射は芽止めやO-157対策など食品安全確保に資するものである。また、「2.平成17年度の施策の方向性について」の にアジア地域における国際協力について特記しているが、アジア地域では原子力発電よりも放射性・放射線物質利用に関する協力が多くなっており、放射線利用に関する現状認識でこの点についても記述すべきである。

- ( 齋藤委員長代理 ) 資料1の1.には放射線利用に関する項目があるが、2.では明確な記述がない。はっきり記述したほうがよい。
- ( 町委員 ) 2.に放射線利用に関する記述を追加する際には、放射線利用の一つとして、重粒子線によるがん治療が目覚ましい成果をあげており、医療分野への応用についても記載したほうがよい。
- ( 近藤委員長 ) 2.は施策の方向性について記述している部分であり、具体的なことを記述することは望ましくない。
- ( 木元委員 ) 2.の施策の方向性の部分は資料1のままとし、1.の現状認識の部分で放射線利用に関する記述を追加することによって、2.の部分の記述には放射線利用が含まれていると読み取れるようにすればよい。
- ( 前田委員 ) 1.の最後の項目について、「事業者はリスクコミュニケーションを含むリスク管理活動及びその品質保証体制の充実を図り」が具体的に何について述べているのかが不明確であり、原子力発電にのみ言及しているように受け取られかねない。本件は発電事業だけでなくサイクル事業、廃棄物処理事業等あらゆる分野で必要であり、「あらゆる原子力活動において」と記述を追加したほうがよい。
- ( 近藤委員長 ) それでは、1.の放射線利用に関する項目について、2.の部分に記述のある「加速器」との関係が分かるように修文し、放射線の利用分野として食品安全確保を追加し、さらに、放射線利用は国際協力の主要なテーマであることが分かるように修文する。また、1.の最後の項目について、対象を明確にするため「原子力事業のあらゆる分野」という記述を追加する。

以上の方針で修正し、詳細な表現は委員長に一任とさせていただき、取りまとめることとする。

今後、本資料の取り扱いはどうなるのか。

- ( 犬塚参事官補佐 ) 取りまとめた後、各省に通知し、その後各省からヒアリングを行う。その段取りは後日具体的に相談させていただきたい。

## ( 2 ) 市民参加懇談会コアメンバー会議の結果について

標記の件について、犬塚参事官補佐より資料 2 に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

( 木元委員 ) 招聘者や一般の聴衆の方からのご発言には、原子力に対する理解の度合いにばらつきがあり、ご意見の中にはこちらから訂正するべきではないかと思われることもあった。今回はご意見を聴くことに徹し、訂正しなかったが、どのように対応するか今後の懸案事項である。例えば、あくまでも「ご意見を聴く」という設定であるので、その場では後ほど説明すると一言発言するだけにする、あるいは、その場では何も発言せず後からご意見を言われた方に正確な情報を伝えるなど、どのような方法が良いか工夫する必要がある。

( 町委員 ) 多くの方が傍聴している公開の場で、例えば、原子力発電は火力発電よりCO<sub>2</sub>の発生量が多い、浜岡原子力発電所のそばに住んでいる人の細胞に変異が見られたといった明らかに間違っている発言があった。今回の場合、長計(原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画)に関する意見に対して聴くことに徹したことはよかったと思うが、原子力に対する誤った理解に関しては、簡潔に定量的なデータ等を用いて訂正するほうがよかったと思う。

( 近藤委員長 ) 原子力に関して明らかに間違った発言があった場合、原子力委員に対して発言を求められれば答えることは構わない。また、あらかじめご意見をいただいているので、想定される質問に対応できる専門家を準備し、座長が必要と判断した時に説明していただくというやり方もあると思う。

( 木元委員 ) 市民参加懇談会では、原子力委員の方々を一般の傍聴者として取り扱いさせていただいており、一般聴衆として手を挙げて発言いただいたほうが筋がとおるし、同じレベルで発言するという会の趣旨にもあう。

2 ページの「市民参加懇談会 in 福島(仮称)」について、会の構成は地元の青年、婦人、商工会、農業などの団体の方と話し合いながら決めていきたい。ご意見を伺う方は10名程度のしかるべき方を8ヵ町村の中から推薦していただく予定である。原子力に反対の考えを持っていらっしゃる方にも当然加わっていただくことを考えている。

( 前田委員 ) 「原子力と暮らし」～これまでとこれから～というテーマのねらいは何か。

( 木元委員 ) 住民の方々は、かつて原子力を受け入れた頃は、ビジョンを持っており、雇用拡大などで生活環境がよくなった。また、原子力施設を共に造ったという意識を持つとともに、有用な資産として歓迎していた。ところが、いろいろな不祥事が起こり、プルサーマルを導入するしないといった話のレベルではなく、原子力発電そのものの存在を問う気持ちが生まれてきている。今回のテーマは、これから市民参加懇談会を進めていく上で基盤となるものであり、細かいことには触れずに、「原子力と一緒に暮らしてはどうなったのか」、「原子力に対し昔と同じように思えないのは何がいけないのか」、「元に戻るにはどうすればよいのか」、そして、「これから日本、あるいは、世界の中で原子力はどうなるのだろうか」というところまでご意見を伺うことができればよいと思う。また、立地地域の住民の方々から伺った原子力に対する思いを、電力消費地の方々や、電力事業者にお伝えしたい。結果については一般に公表するとともに、県や電力事業者にお届けする等の工夫をしたい。

( 齋藤委員長代理 ) 会には 8 ヲ町村以外の者の参加は可能か。

( 木元委員 ) 福島第 1、第 2 原子力発電所を支えている 8 ヲ町村を中心に考えているが、その他の方々の参加も歓迎する。

( 近藤委員長 ) 会がより良いものになるように引き続きご検討いただきたい。

### ( 3 ) 原子力委員会専門委員の解任について

標記の件について、藤嶋参事官より資料 3 に基づき説明があった。

### ( 4 ) その他

- ・事務局作成の資料 4 の第 1 4 回原子力委員会定例会議議事録(案)が了承された。
- ・事務局作成の資料 5 の長計についてご意見を聴く会(第 1 1 ~ 1 4 回)の開催について、藤嶋参事官より説明があった。
- ・事務局より、4 月 2 0 日(火)に次回定例会議が開催される旨、発言があった。